



福島第一原子力発電所から80km。原発事故当時、米軍内では80km圏外への避難指示を出していた

**恥知らずな東電からは
電気を買いたくない 売りたいくもない**

30年前、街中育ちの妻と生まれたばかりの長女とともにUターン。4 haほどで無農薬米をつくり、平飼いで数百羽の採卵養鶏、多品目の野菜を植え、それらを直売して百姓暮らしをしてきた。地産地消を基本としつつ、インターネットを通じての販売にも取り組んで15年以上。しかし3・11の原発事故の後、ネットでの注文はほぼなくなった。

人から故郷をうばい、海を汚しつづけ、作業員を被曝させながら、収束の見通しもたない。とんでもない大事故を起こしながら、責任者が罰せられることもない。それでいて黒字経営だとか。そんな恥知らずな公害企業



曾祖父が建てた築100年余の茅葺き家に載せた数々のソーラーパネル。世界でも唯一の風景に違いないと自負。パネルにはジョイントをつけて斜面の足場パイプとつないだ。自転車はオブジェ。パネルからELワイヤーを這わせて夜は光るようにした 写真=森住 卓

の商品など買いたくない。食べものを自給してきた百姓の意気がりて、電気も自分ですることになった。

いま、日本中そここにソーラーパネルが並んでいる。ほぼ全部が売電事業だろう。それらと違って、わが家はオフグリッド。電気を売るのはなく、すべて蓄電して自家用に使うシステムで、2013年の夏、予備知識ゼロからスタートした。インターネットで独学し、機器類をネット通販でそろえた。設置も接続も1人で作業。機器類や電線をつないだりはずしたり、たたずんでは考え込んで、なんとか電力自給ができるようになった。天気が悪いと、昼間はともかく、夜間の電気が不足することはある。いつでも東電の電気に切り替えられる配線にはあるが、実

際に切り替えたことはない。いろいろ起こる問題解決に追われながらも、とにかく東電からは購入せず、電気を自給して暮らしている。ちなみに、安上がりになったかというところ、機器類代を含めれば逆に高くてついている可能性も小さくない。厳密な計算はしていない。電気をつくり、使うということ、目先のカネだけの問題ではないのだ。そんな思いを強くした経緯から書いてみたい。

損害はカネなんかで置き換えられない

大震災・原発事故から1年後の12年4月、東海村で「さよなら原発」を掲げる大集会が開かれ、農家として発言する機会を得た。「先ほど若いお母さんが『地元の物を食べさせていいのか迷ってしまう』と話されました。